



一般財団法人キヤノン財団 第12期事業報告書

(2019年1月1日から2019年12月31日まで)



キヤノン財団
The Canon Foundation

第12期事業報告書 I N D E X

当年概況:年間活動実績	01
当年概況:年間活動実績	02
研究助成事業概要	03
2019年度募集「善き未来をひらく科学技術」プログラム概要	04
2019年度募集「新産業を生む科学技術」プログラム概要	05
研究助成事業概要(2018年度以前募集)	06
研究助成活動	
今年度募集・選考研究助成	07
第11回 研究助成募集	08
募集結果	09
選考結果	10
今年度採択研究助成	11
第10回研究助成	12
第10回研究助成金贈呈式	13
今年度終了研究助成	14
「産業基盤の創生」研究終了	15
第8回「産業基盤の創生」研究成果報告会 プログラム	16
「理想の追求」研究終了	17
第7回「理想の追求」シンポジウム プログラム	18
知財財産講習会・アウトリーチ(外部向け講演会)	19
広報活動	20
リユニオン	21
過去からの研究助成実績	22
第1回(2010年)研究助成先	23
第2回(2011年)研究助成先	24
第3回(2012年)研究助成先	25
第4回(2013年)研究助成先	26
第5回(2014年)研究助成先	27
第6回(2015年)研究助成先	28
第7回(2016年)研究助成先	29
第8回(2017年)研究助成先	30
第9回(2018年)研究助成先	31
第10回(2019年)研究助成先	32
採択実績推移	33
会計報告	34
正味財産増減計算書	35
貸借対照表	36
キャノン財団 概要	37
設立趣意	38
ビジョン/ミッション	39
財団概要	40
評議員・理事・監事 一覧	41

当年概況：年間活動実績

当年概況:年間活動実績

第12期(2019年)年間実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
評議員会 ・理事会			▼ 第11期事業報告 第10回研究助成決定 ▼ 選考委員改選								▼ 第12期経過報告 第13期事業計画	
研究助成決定 (第11回募集)	▼ 新プログラム 決定・発表			▼ 募集要項公開 ▼ 大学・研究機関窓口への案内 ← 学会誌、学会HPへの 募集案内掲載 ▼ 公募説明会		← 募集期間 →		← 書面審査 →			▼ 一次選考会	▼ 二次選考会 (面接) ▼ 第11回研究助成 候補決定
助成研究実施 (開始～終了)			▼ 第10回贈呈式	▼ 研究助成金出金		← 研究(終了/経過)報告書 会計報告書提出(第6回～9回) →		▼ 「産業基盤の創生」 研究成果報告書	▼ 「理想の追求」 シンポジウム			
フォローアップ アウトリーチ等										← 第9回研究助成先訪問 →		← 第10回研究助成先訪問 →
			▼ 知的財産講習									▼ リユニオン
	▼ 「和食と健康」 シンポジウム(東京)				▼ 「和食と健康」 シンポジウム(京都)							

研究助成事業概要

2019年度募集 「善き未来をひらく科学技術」プログラム概要

「善き未来をひらく科学技術」プログラム概要

善き未来につながる新しい価値の創出に必要な科学知識を獲得する研究、およびその展開を図る基礎技術研究に対して助成を行う。

これまで人類は、直面する社会の様々な課題に対して、新しい技術やアイデアで解決を図ってきた。しかしながら、その解決の先には不都合な課題が生まれていることも否定できない。善き未来社会を実現するためには、過去の延長線上にない、人類にとって本当に幸福な未来(善き未来)の洞察から導き出した未来の価値設計、課題の解決が重要といえる。善き未来は予測するものではなく、構想し、確固たる意志を持って切り拓いていくべきものだと考える。

本プログラムでは、未来社会に予見される新しい課題を発見し解決するような、革新的な知識、知恵、情報、技術などを獲得する科学技術研究を募集する。まだ世の中で注目されていない独創的な視点や特異な発想に基づいた研究を支援する。

助成金額：1件あたり申請総額の上限・・・3000万円

採択件数：3件程度

助成期間：原則3年間

助成対象：日本国内の大学、大学院、高等専門学校、公的研究機関等に勤務する研究者

選考方法：キヤノン財団選考委員による一次選考(書類選考)および二次選考(面接)

「善き未来をひらく科学技術」選考委員

(五十音順)

委員長	大垣 眞一郎	東京大学名誉教授
	有本 建男	政策研究大学院大学 客員教授、科学技術振興機構 上席フェロー
	喜連川 優	国立情報学研究所 所長、東京大学 生産技術研究所 教授
委員	黒川 清	政策研究大学院大学名誉教授、東京大学名誉教授
	所 眞理雄	オープンシステムサイエンス研究所 代表取締役社長
	西澤 直子	石川県立大学 学長
	安岡 善文	東京大学名誉教授

2019年度募集 「新産業を生む科学技術」プログラム概要

「新産業を生む科学技術」プログラム概要

新産業の実現につながる新しい価値の創出をめざし、そのために必要な技術を確認する研究、およびその基礎となる科学技術研究に対して助成を行う。

科学技術には、産業構造を大きく変え、時にこれまで実現不可能と思われた社会の実現を可能にする力がある。今日の人工知能や、IoT、ビッグデータ、等はその一例と言えるでしょう。将来にわたり日本が強い産業力を持ち続けるためには、そうした産業構造の変革をおこすような新しい科学技術を生み発展させることが必要となる。

本プログラムでは、次の時代をリードする新産業に必要な、これからの社会の豊かさを実現するための、要素技術の確立、機構・機序の解明、あるいはシステムを構成させる革新的な科学技術研究を募集する。研究者自身の自由な発想をもとにした独創的な研究、未知の分野や未開発の技術を切り拓く挑戦的な研究を支援する。

助成金額：1件あたり申請総額の上限・・・2000万円

採択件数：10件程度

助成期間：原則3年間

助成対象：日本国内の大学、大学院、高等専門学校、公的研究機関等に勤務する研究者

選考方法：キヤノン財団選考委員による一次選考(書類選考)および二次選考(面接)

「新産業を生む科学技術」選考委員

(五十音順)

委員長	長田 義仁	理化学研究所 基幹研究所 客員主管研究員、北海道大学名誉教授
副委員長	伊東 一良	大阪大学 産学共創本部共創人材育成部門 招聘教授、大阪大学名誉教授
	片岡 一則	川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター センター長 東京大学政策ビジョン研究センター 特任教授
	荒川 薫	明治大学 総合数理学部長 教授
	安藤 功兒	産業技術総合研究所 名誉リサーチャー
	大西 公平	慶應義塾大学 ハプティクス研究センター 特任教授
	岸田 晶夫	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授
	小長井 誠	東京都市大学 総合研究所 特任教授、東京工業大学名誉教授
委員	宝田 恭之	群馬大学 大学院理工学府 特任教授
	谷本 正幸	名古屋産業科学研究所 上席研究員、名古屋大学名誉教授
	中條 善樹	京都大学名誉教授
	半田 宏	東京医科大学 ケミカルバイオロジー講座 特任教授、東京工業大学名誉教授
	深水 昭吉	筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 教授
	藤田 静雄	京都大学 大学院工学研究科 教授
	山地 憲治	地球環境産業技術研究機構 副理事長・研究所長、東京大学名誉教授

研究助成事業概要(2018年度以前募集)

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

日本の強い産業を更に強化する、あるいは新たな産業を興すことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を募集する。このような分野として、ICT・エレクトロニクス・ロボティクス、健康・医療・生命科学、バイオテクノロジー、環境・資源・エネルギー、マテリアル・デバイス・プロセス、サービスサイエンスがあげられる。また、社会的に複雑で難しい課題を解決するために、分野間の知的な触発や融合を図る挑戦的な新興・融合テーマなども対象として含める。日本の経済発展には地域の活性化が不可欠。キヤノン財団は特に地域の活性化に貢献する研究を重点的に支援する。地方に位置する大学等の研究を支援するとともに、中央に位置する大学等の研究であっても地域の活性化を目指す研究について支援する。

経済発展を促すような科学技術分野

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス

健康・医療・生命科学

マテリアル・デバイス・プロセス

バイオテクノロジー

環境・資源・エネルギー

サービスサイエンス

研究助成プログラム「理想の追求」

このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点からキヤノン財団が毎年研究課題を提示する。この研究課題にグローバルな視点から挑戦する先駆的で独創性のある研究プロジェクトを募集する。2019年度の研究課題は昨年に引き続き「食に関する研究」。食に関する研究はいろいろな観点から、今見直されるべき時に来ている。本プログラムでは、次のような課題に向けて取り組む研究プロジェクトを助成の対象とする。

食に関する研究

飢餓と飽食

食の安全保障

第6次産業化

食の文化と健康、美味しさ

食の安全性と流通

研究助成活動
今年度募集・選考研究助成

第11回研究助成募集

(1) 募集および選考の日程

第11回研究助成活動年間日程

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
募集	▼ 新プログラム 決定・発表			▼ 募集要項 公開		←→ 「新産業を生む科学技術」 募集期間 ←→ 「善き未来をひらく科学技術」 募集期間						
広告宣伝				▼ 大学・研究機関窓口への案内	←→ 学会誌、学会HPへの 募集案内掲載		▼ 公募説明会					
選考								←→ 書面審査		▼▼ 一次選考会	▼▼ 二次選考会(面接)	▼ 研究助成 候補決定

(2) 助成プログラムの一新

1月に「善き未来をひらく科学技術」「新産業を生む科学技術」の2つのプログラムに一新することを決定し、当財団ホームページに公開した。

(3) 学会、公的研究機関への案内

学会誌・学会ホームページへの募集要項の掲載、学会会員への募集案内メール配信を依頼した。またJSTサイエンスポータル等へ募集案内の掲載を依頼した。依頼した機関数は、34機関であった。大学及び公的研究機関の助成担当窓口に対しては、当財団より募集案内のメールを配信した。配信先は164機関であった。

(4) 公募説明会の実施

新しいプログラムの広報と、研究の現場でどのような受け入れ方がされるか知るために、テスト的に二つの大学にて公募説明会を実施した。大変興味をもってもらい、研究者たちの生の声を聴くことができる貴重な場であった。2020年には対象を広げることを企画している。

募集結果

(1) 概要

各プログラムの応募結果は以下の通りであった。

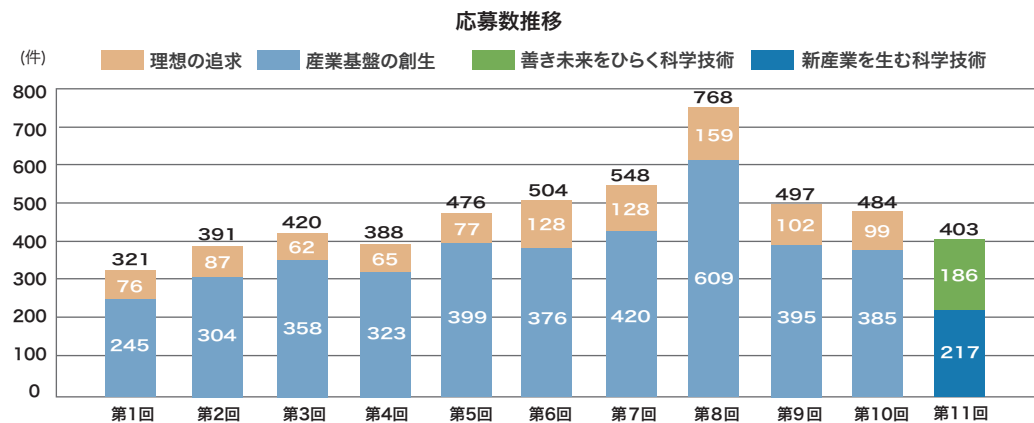
- 「善き未来をひらく科学技術」 応募数：186件・平均年齢：47.8歳
- 「新産業を生む科学技術」 応募数：217件・平均年齢：45.6歳

(2) 昨年までとの比較

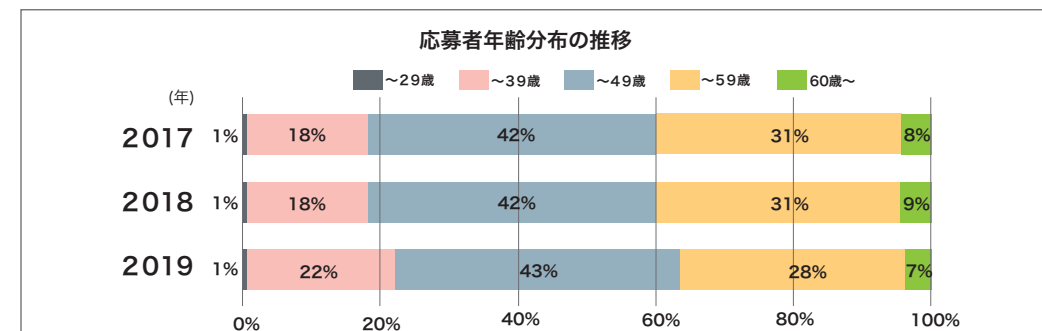
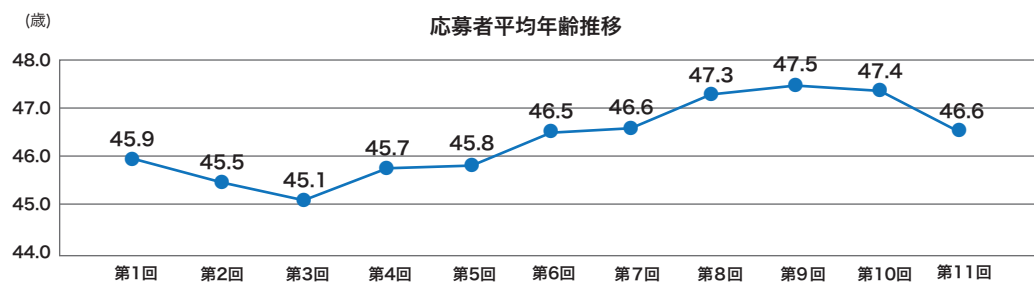
2つのプログラムをそれぞれ昨年までのプログラムと比較することはできないため、合計で比較する。

- 2019年(善き未来をひらく科学技術、新産業を生む科学技術) 応募数：403件・平均年齢：46.6歳
- 2018年(理想の追求、産業基盤の創生) 応募数：484件・平均年齢：47.4歳

応募者数



応募者年齢



選考結果

(1)選考結果

応募締め切り後、書面審査、一次選考会、二次選考会を経て助成候補が決定した。
助成候補については、選考結果報告書を作成し、2019年12月に理事長に提出した。
最終決定は2020年3月の理事会の決議による。

「善き未来をひらく科学技術」

- 助成候補件数：3件(助成総額9千万円)
- 助成候補者平均年齢：46.0歳

「新産業を生む科学技術」

- 助成候補件数：11件(助成総額2億円)
- 助成候補者平均年齢：43.4歳

研究助成活動

今年度採択研究助成

第10回研究助成

第10回研究助成の決定

2019年3月18日の理事会において、選考委員会より提出された第10回研究助成候補が原案通り承認され、研究助成先が決定した。

- 「産業基盤の創生」研究助成プログラム 12件(総額2億円)
- 「理想の追求」研究助成プログラム 4件(総額9千万円)

「産業基盤の創生」研究助成

(五十音順)

氏名	所属機関(申請時)	職位	研究テーマ	助成金(万円)
安藤 和也	慶應義塾大学	准教授	金属酸化物スピン軌道エレクトロニクスの開拓	2,000
和泉 慎太郎	大阪大学	特任准教授	体温発電を用いるバッテリーレス容量結合型心電図計測システム	1,400
伊藤 英臣	産業技術総合研究所	研究員	腸内細菌をねらった害虫防除技術の基盤創出	1,600
伊庭 靖弘	北海道大学	准教授	あらゆる内部構造をフルカラーで捉える3Dイメージング装置開発	1,500
川上 茂	長崎大学	教授	ネオ・エクソソームの創製	1,400
木寺 正平	電気通信大学	准教授	ドップラ及び多重散乱データの双方向処理による多元的人体検出法	1,400
澤本 和延	名古屋市立大学	教授	脳細胞の移動促進による再生医療技術の創出	2,000
谷本 博一	横浜市立大学	専任講師	時空間分解能を持つ細胞内力学操作技術の開発	1,500
坪井 泰之	大阪市立大学	教授	ナノ構造と量子効果に基づく革新的光マニピュレータの開発	2,000
中川 明	石川県立大学	講師	オピオイド系鎮痛剤の原料テバインの大腸菌を用いた生産系の構築	1,800
長汐 晃輔	東京大学	准教授	2次元層状ヘテロ構造を用いた光機能素子の実証	1,800
山口 明彦	東北大学	助教	視触覚センサFingerVisionに基づくAI物体操作	1,600

「理想の追求」研究助成

(五十音順)

氏名	所属機関(申請時)	職位	研究テーマ	助成金(万円)
伊藤 幸博	東北大学	准教授	薬に過度に依存しない畜産物の健全育成システムの開発	2,000
経塚 淳子	東北大学	教授	地下茎雑草の強みを逆手に取る画期的雑草防除法の開発	2,000
清水 達也	東京女子医科大学	教授	藻類動物細胞共生リサイクル培養による革新的食料生産法の確立	3,000
宮下 芳明	明治大学	教授	健康な食事を化学物質なしで満足な美味しさに変える電気味覚技術	2,000

第10回研究助成金贈呈式

第10回研究助成金贈呈式

2019年4月19日(金)、東京都千代田区の経団連会館において、「第10回 研究助成金贈呈式」が開催された。贈呈式には、助成研究者、助成研究者関係者、評議員、理事、監事、選考委員、招待者、キヤノン関係者等合わせて83名が参加した。贈呈式では、はじめに御手洗評議員会議長からお祝いの挨拶があり、「難関を突破して決定した研究テーマには大きなイノベーションが期待され、2年後、3年後に出てくる研究成果、さらにその先の大きな発展が楽しみです。研究者の皆様には、本日を一つの出発点として、これからも夢のあるアイデアに挑戦していくことを期待してやみません。」と研究者を激励した。

続いて吉川理事長は、「皆さんの研究構想には大変魅力的なものがそろっていると感じており、国の研究費や企業の研究費による研究とは違う形で、我が国の科学技術の発展に貢献する可能性が感じられます。皆さんは、自分の好奇心を信じ、未来に向かって勇気をもって研究に取り組んでください。」と励ましの言葉を述べた。その後、「産業基盤の創生」長田選考委員長および「理想の追求」大垣選考委員長から選考講評と助成研究者への期待の言葉が述べられた。

贈呈証の授与では、16名の助成研究者全員に御手洗議長から贈呈証が直接手渡され、続いて助成研究者を代表して、慶應義塾大学の安藤准教授と東北大学の経塚教授から研究への抱負が述べられた。

贈呈証授与後、第4回助成研究者である国立極地研究所の田村准教授による講演「気候変動の鍵を握る南極の海」があり、海洋大循環による地球の気候への影響と、その変化をとらえることによる環境アセスメントへの取り組みが紹介された。

最後に評議員会議長、理事長、両選考委員長と今回の助成研究者全員の集合記念撮影をもって閉式した。



研究助成活動

今年度終了研究助成

「産業基盤の創生」研究終了

第8回「産業基盤の創生」研究終了について

2019年3月に、第8回助成研究12件のうち11件が研究期間を終了した。残り1件は1年間の延長をしている。これらの11件の研究テーマについて報告書が提出され、それらを冊子にまとめるとともに、当財団ホームページに掲載した。

第8回「産業基盤の創生」研究成果報告会の開催

2019年7月17日(水)、CGMI(キヤノングローバルマネジメントインスティテュート)において、第8回「産業基盤の創生」研究成果報告会を開催した。

報告会には、助成研究者及び関係者、理事長、選考委員、キヤノン関係者等合わせて72名が参加し、研究が終了した11件の研究成果報告を行なった。選考委員をはじめ、多くの出席者から質問・意見が出され、活発な議論が行なわれた。

第8回「産業基盤の創生」研究成果報告会プログラム

日時：2019年7月17日(水)12:50～
場所：キヤノン グローバル マネジメント インスティテュート

【開会あいさつ】 吉川 弘之 キヤノン財団 理事長

セッション1 材料・プロセス技術を用いた機能素子 座長：安藤 功兒(産業技術総合研究所)

- ガス透過性金型を用いる医薬品材料のナノインプリント加工技術 竹井 敏(富山県立大学)
- ヘリコン波プラズマエピタキシー開発とポラリトンレーザ構造形成 秩父 重英(東北大学)
- 次世代MRAMへ向けた反平行磁化配列層のスピントルク発振実証 湯浅 裕美(九州大学)

セッション2 ナノテクノロジーを牽引する機能材料 座長：長田 義仁(理化学研究所)

- トマト由来ステロイドアルカロイド配糖体によるプローブ材料開発 黒岩 敬太(崇城大学)
- 音響配向エレクトロクロミックナノファイバーの創製 津田 明彦(神戸大学)
- 高CO₂固定植物の作出に向けた気孔エンジニアリング技術の創出 桧垣 匠(熊本大学)
- 次世代がん治療を実現する「放射線力学療法」の基盤研究 高橋 淳子(産業技術総合研究所)

セッション3 ゲノム研究における最新技術 座長：岸田 晶夫(東京医科歯科大学)

- 単一細胞エピゲノム解析のための基盤技術創成 馬渡 和真(東京大学)
- 微弱電流薬物送達システムによる体内臓器への核酸医薬新規送達法 小暮 健太郎(徳島大学)
- 幹細胞における迅速なタンパク質発現制御技術の開発 鐘巻 将人(国立遺伝学研究所)
- マイクロ液滴を利用した有用な機能性生体分子の探索・創製 船津 高志(東京大学)

【選考委員長講評】長田 義仁 選考委員長



「理想の追求」研究終了

第6回、第7回「理想の追求」研究終了について

第7回「理想の追求」助成研究の4件、および第6回研究助成のうち1年の期間延長をしていた1件、2019年3月にそれぞれの研究期間を終了した。これらの成果報告書5件、および第8回、第9回研究助成の経過報告書7件が提出され、冊子にまとめた。また、成果報告書については、当財団ホームページに掲載した。

第7回「理想の追求」シンポジウムの開催

2019年7月31日(水)、CGMIにおいて、第7回「理想の追求」シンポジウムを開催した。シンポジウムには、第6回～第10回助成研究者、その共同研究者、理事長及び理事、選考委員、キヤノン関係者等合わせて61名が参加した。

研究が終了した5件の成果報告、4件の研究中間報告が行なわれ、それ以外の研究進捗についてはポスターセッション方式で発表された。シンポジウム全体を通じて、選考委員はじめ多くの出席者からの質問・意見と共に、活発な議論が交わされた。

第7回「理想の追求」シンポジウムプログラム

日時：2019年7月31日(水)10:00～
場所：キャノン グローバル マネジメント インスティテュート

【開会あいさつ】 吉川 弘之 キヤノン財団 理事長

第I部 研究中間報告

- 食と腸内細菌により形成される腸内環境の理解と健康科学への展開
國澤 純 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
- イネ種子微生物叢を介した種子形質及び微生物共生の制御基盤構築
西條 雄介 (奈良先端科学技術大学院大学)
- 土を肥やす新たな微生物基盤の解明 妹尾 啓史 (東京大学)
- 接木技術革新による放棄土壌の再活用プロジェクト 野田口 理孝 (名古屋大学)

第II部 研究成果報告

- 揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築 木下 奈都子 (筑波大学)
- 食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価 芦苅 基行 (名古屋大学)
- 食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析 栗原 新 (近畿大学)
- 牛肉生産システムの大構造改革: 科学と国土をフル活用した大革新 後藤 貴文 (鹿児島大学)
- フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究 辻 寛之 (横浜市立大学)

第III部 研究経過報告(ポスター報告)

- 日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析 植松 智 (大阪市立大学)
- 食物アレルギーを幅広く軽減するコメの研究 加藤 清明 (帯広畜産大学)
- 先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止 小早川 高 (関西医科大学)
- 薬に過度に依存しない畜産物の健全育成システムの開発 伊藤 幸博 (東北大学)
- 地下茎雑草の強みを逆手に取る画期的雑草防除法の開発 経塚 淳子 (東北大学)
- 藻類動物細胞共生リサイクル培養による革新的食料生産法の確立 清水 達也 (東京女子医科大学)
- 健康な食事を化学物質なしで満足な美味しさに変える電気味覚技術 宮下 芳明 (明治大学)

【選考委員長講評】 大垣 眞一郎 選考委員長



知的財産講習会・アウトリーチ(外部向け講演会)

知的財産講習会

2017年度より、助成先研究者への知的財産の基礎に関する講習会を開始し、2019年で第3回目となる。

実施日 2019年3月27日(木)午後
受講者 12名(助成先研究者、共同研究者)
内容 知的財産の基本、発明の認識とその特徴把握、特許調査入門
 全出席者から高い満足度が得られた。

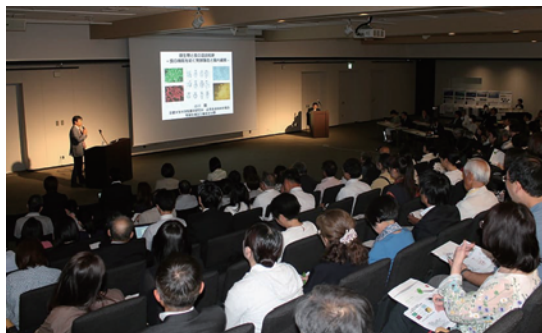
アウトリーチ(外部向け講演会)

「理想の追求」で助成研究している「食に関する研究」について、2018年より「和食と健康」と題した外部向けのシンポジウムを一般社団法人和食文化国民会議と共催している。

2019年は、東京と京都で各1回開催し、いずれも多くの方が参加し盛況となった。



■ 1月25日(金)
 千代田区・秋葉原UDXギャラリーネクスト
 副題「持続可能な未来に向けた和食食材の新たな展開」
 講演者:3名
 参加者:105名



■ 5月23日(木)
 京都市・京都産業会館ホール
 副題「腸内細菌・微生物で賢い『食』を考える」
 講演者:2名
 参加者:260名

(1) キヤノン財団ホームページ更新

今期、新たに発信した情報は以下となる。

① キヤノン財団事業報告書

第11期 キヤノン財団の事業活動として、研究助成プログラムの概要、選考委員、研究助成活動(募集、応募状況、選考過程等)、贈呈式、「理想の追求」シンポジウム、「産業基盤の創生」研究成果報告会、会計報告等について詳細に報告した。

② 助成先日より

助成研究の概要、研究のその後の発展状況、研究者になろうと思ったきっかけ、助成期間を通じた感想、今後の夢などについて、助成先研究者へのインタビューをもとに制作した。今年は5名へのインタビューを実施し、ホームページに掲載した。これまでに合計12名が掲載されている。



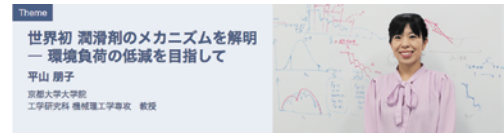
王 碩玉 先生(高知工科大学)
「産業基盤の創生」第4回助成



福田 弘和 先生(大阪府立大学)
「産業基盤の創生」第4回助成



松元 亮 先生(東京医科歯科大学)
「産業基盤の創生」第6回助成



平山 朋子 先生(京都大学)
「産業基盤の創生」第4回助成



井上 麻夕里 先生(岡山大学)
「理想の追求」第4回助成

(2) メディア掲載推進

助成先研究をメディアに取り上げてもらう活動の2019年実績を以下に示す。

- 神戸大学 津田先生(産業基盤の創生 第8回) 化学工業日報 2019/8/29

リュニオン

(1) リュニオン趣旨

今までに採択された研究者の数は、共同研究者を含めると380人を超える規模になっている。この研究者の集まりは、学術領域の枠を超えた多くの分野に渡っており、この中から将来的に異分野融合研究が生まれることが期待される。「リュニオン」はそうした目的をもって活動をしている。

(2) 開催内容

第3回目は、2019年12月6日に大手町ファーストスクエアカンファレンスで開催した。理事長、選考委員、助成先研究者、その他関係者を含め、総勢90名が参加した。

1つ目のプログラムとして、異分野の研究交流のきっかけづくりとして、ポスターセッションを実施し、助成終了後および助成中の研究者合わせて18名によるプレゼンテーションが行われた。異分野研究者同士が熱く議論する場面が、会場の至るところで見られ、今後分野を超えた融合研究が始まることが期待される。

つづいて2つ目のプログラムとして、キヤノン財団理事である安西祐一郎先生から「現在の人工知能に何ができないか、なぜできないか？ - 科学研究のモデル・イシューとして -」と題した講演が行われた。現在の人工知能(AI)にできることやできないこと、そして、できないことの背景にはどのような科学研究課題があるのかの紹介があった。さらに日本でなぜできないのかなど、日本の科学技術研究の問題についてもふれ、先生のワールドワイドな経歴を交えて熱く語られた。その後の質疑応答では、多岐にわたる質問や意見が交わされ、活発な議論が繰り広げられた。



過去からの研究助成実績

第1回(2010年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
安坂 幸師	名古屋大学 助教	中空多層フラーレンの光・電子デバイスの開発	1,900
市浦 英明	高知大学 准教授	界面重合反応を活用した新しいナノカプセル・ナノファイバー・ ナノ多孔合成法とその特徴を有するシート状素材の開発	1,000
岡田 健一	東京工業大学 准教授	CMOS技術を用いたミリ波帯超高速スケーラブル無線回路技術の研究	1,200
金子 真	大阪大学 教授	マイクロ液滴によるダイナミックアクティブセンシング	1,500
河野 行雄	理化学研究所 専任研究員	固体ワンチップによる広帯域テラヘルツ分光器の開発	1,700
栗原 正人	山形大学 准教授	100°Cの壁を越える低温焼結性銀超微粒子の高効率・簡便製造と基材適合性	1,200
黒田 俊一	名古屋大学 教授	ナノメディスンの生体内ピンポイント送達を可能にする ヒト由来ウイルス外皮タンパク質コーティング技術の開発	2,000
小池 英樹	電気通信大学 教授	デジタルスポーツ創生のための基礎研究	1,500
佐々木 健夫	東京理科大学 准教授	光誘起電界による分子運動の変調に基づく動的ホログラムの形成	1,000
祖山 均	東北大学 教授	流動キャパシテーションによるラジカルの制御	2,000
中村 龍平	東京大学 助教	自然共生型の高効率光エネルギー変換システムの構築	2,000
松尾 吉晃	兵庫県立大学 准教授	水素貯蔵用シルセスキオキサン架橋型ピラー化炭素の創生	1,000
森田 靖	大阪大学 准教授	有機分子を活物質に用いた革新的高性能二次電池の開発	2,000

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
岩淵 聡文	東京海洋大学 教授	水中文化遺産研究への海洋工学の応用	2,000
北野 宏明	特定非営利活動法人 システム・バイオロジー研究機構 会長	サンゴ-共生藻におけるロバストネス・トレードオフと気候変動	5,000
佐藤 克文	東京大学 准教授	動物目線による海洋環境モニタリング	3,000

第2回(2011年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
安 東 秀	東北大学	助教	走査ナノダイヤモンド磁気検出器プローブによる単スピン検出	1,500
今里 浩子	一般財団法人ファジシステム研究所	主任研究員	誘電泳動現象を用いた白血病細胞の分離・同定	1,700
小椋 俊彦	産業技術総合研究所	主任研究員	高分解能三次元リアルタイム軟X線顕微鏡の開発	1,700
韓 立 彪	産業技術総合研究所	グループ長	革新的有機ヘテロ原子機能材料の創製	1,900
佐治木 弘尚	岐阜薬科大学	教授	機械エネルギーで水から水素を製造する次世代エネルギーシステム	2,000
庄司 暁	大阪大学	助教	2光子加工法を駆使したナノ領域でのポリマーの力学特性の解明	1,100
田邊 孝純	慶應義塾大学	専任講師	微小光共振器による位相制御された光周波数コム光源の開発	1,500
東口 武史	宇都宮大学	准教授	次々世代半導体リソグラフィー用波長6.7nm 極端紫外光源の開発	1,900
細谷 浩史	広島大学	教授	ミドリゾウリムシ共生藻が産生する糖類の利用に関する研究	2,000
村越 敬	北海道大学	教授	電子移動機能アトムサイトの室温構造制御	1,500
森川 浩安	大阪市立大学	講師	超音波速度の温度依存性を利用した内臓脂肪診断装置の開発	1,700
吉原 利忠	群馬大学	助教	低酸素病態イメージングのための高機能りん光プローブ分子の開発	1,500

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
桑田 晃	水産総合研究センター	主任研究員	未知の藻類:バラム藻が解き明かす海洋を支える珪藻の進化	2,800
杉松 治美	東京大学	特任研究員	アジア域に棲息する小型歯クジラ類のリアルタイム音響観測ネットワークの構築	2,800
眞部 広紀	佐世保工業高等専門学校	准教授	陸海域カルスト水文系の追跡によるロボット探査とマッピング	600
御手洗 哲司	沖縄科学技術研究基盤整備機構	若手代表研究者	深海底熱水噴出域の幼生輸送と生物群集変動	3,800

第3回(2012年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
浅沼 浩之	名古屋大学	教授	医療応用を目指した人工核酸の創成	2,000
味噌 逸樹	東京医科歯科大学	准教授	ニューラルネットワークモデル検証のための神経細胞三次元培養	1,600
内山 潔	鶴岡工業高等専門学校	教授	プロトン伝導性酸化物薄膜の高機能化とその燃料電池応用	1,100
奥野 貴士	山形大学	准教授	細胞膜タンパク質機能の高感度イメージング解析技術の開発	1,400
尾崎 信彦	和歌山大学	准教授	多色量子ドットによる近赤外広帯域光源開発と医療OCTへの応用	1,200
角田 直人	首都大学東京	准教授	近赤外分光法に基づく顕微領域の温度・水分同時イメージング法の開発	1,500
岸本 昭	岡山大学	教授	高信頼性耐火物への制御した気孔導入が可能な超塑性発泡法の開発	1,600
戸川 望	早稲田大学	教授	グリーンITを実現する超低電力化フラットLSI自動設計技術の創生	1,600
則包 恭央	産業技術総合研究所	主任研究員	光で溶ける有機材料-再生可能な感光性有機材料の基盤技術の創出	2,000
松村 和明	北陸先端科学技術大学院大学	准教授	両性電解質高分子を利用した高次細胞構造体の凍結保存技術の開発	1,300
守友 浩	筑波大学	教授	ネットワークポリマーを用いた『カラー電池』の開発	1,300
山本 希美子	東京大学	講師	先進分子イメージングによる血管の血流感知機構の解明	2,000
渡部 平司	大阪大学	教授	界面制御に基づく超低消費電力半導体ナノエレクトロニクスの創成	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
落合 芳博	東海大学	教授	深海魚類資源の網羅的開拓	1,000
桑江 朝比呂	港湾空港技術研究所	チームリーダー	都市型ブルーカーボン:新たな沿岸海域炭素循環像の構築	1,000
高井 研	海洋研究開発機構 プログラムディレクター		「沖縄の深海に超巨大海底熱水鉱床を探せ」	5,000
西岡 純	北海道大学	准教授	凍る海の豊かな生態系を生み出す機構の解明	3,000

第4回(2013年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
有澤 光弘	北海道大学	准教授	機能性分子合成用希少元素削減・代替型ナノパーティクル触媒の開発	1,200
伊藤 公平	慶應義塾大学	教授	ダイヤモンドによる単一プロトン核スピン磁気共鳴センシング	1,800
伊藤 嘉浩	理化学研究所	主任研究員	化学拡張進化分子工学による蛍光センサー分子の構築原理の実証	1,500
王 碩玉	高知工科大学	教授	自立高齢者生活支援のためのインテリジェント・ロボットの開発	1,600
大道 英二	神戸大学	准教授	テラヘルツ磁気共鳴力顕微鏡を用いた生体分子の高分解能スペクトロスコピー	1,500
木村 崇	九州大学	教授	スピン吸収効果を用いた極微細スピンクーリングデバイスの開発	1,000
萩原 伸也	名古屋大学	特任准教授	翻訳段階で遺伝情報を変換する新規遺伝子治療法の創生	1,000
林 隆介	産業技術総合研究所	研究員	脳神経情報に基づく視覚体験の可視化技術の開発	1,300
平山 朋子	同志社大学	准教授	超低摩擦摺動メカニズム解明のための新規固液界面分析装置の開発	1,500
福田 弘和	大阪府立大学	准教授	植物工場における超高速環境パラメータ最適化手法の開発	1,700
松田 一成	京都大学	教授	革新的光電変換機能をもつオールナノカーボン太陽電池の開発	1,700
宮元 展義	福岡工業大学	准教授	層状ペロブスカイトに基づく機能性無機ナノシート液晶の開発	1,800
村田 昌之	東京大学	教授	細胞質交換法を用いた「病態モデル細胞」創成と解析技術の開発	1,800

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
井上 麻夕里	東京大学	助教	環境を記録する造礁サンゴの骨格成長メカニズムの解明	4,000
岩崎 渉	東京大学	講師	太古、生命はどんな光を見たか	3,000
田村 岳史	国立極地研究所	助教	気候変動の鍵を握る南極の海	3,000

第5回(2014年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
大森 雅登	豊田工業大学	嘱託研究員	半導体ナノ細線フォトトランジスタを用いた単一光子検出器の開発	1,600
加藤 雄一郎	東京大学	准教授	カーボンナノチューブ単一光子源	1,400
式田 光宏	広島市立大学	教授	肺内部でのその場計測を可能にするカテーテルセンサの開発	1,100
白井 裕子	早稲田大学	准教授	林地内走破型伐倒マニピュレータシステムの開発	1,100
竹岡 敬和	名古屋大学	准教授	白い粒子と黒い粒子から得られる様々な色の顔料の調製	1,800
生津 資大	兵庫県立大学	准教授	近未来型低侵襲癌治療のための瞬間発熱ナノ粒子の実現	2,000
新倉 謙一	北海道大学	准教授	高活性ワクチンアジュバントのためのハイブリッドナノ粒子開発	1,810
西村 智	自治医科大学	教授	ゆらぐ生命現象の可視化デバイスの開発	2,000
根岸 雄一	東京理科大学	准教授	低コスト燃料電池を実現する高活性白金触媒の精密合成法の開発	1,400
平川 一彦	東京大学	教授	単一分子をテラヘルツ電磁波で見る技術の開拓	1,700
松浦 和則	鳥取大学	教授	環境応答性人工ウイルスキャプシドの創製	1,700
安井 武史	徳島大学	教授	非線形ギャップレス光コム分光法の開発と呼気診断への応用	1,140
山内 悠輔	物質・材料研究機構	主任研究員	電解析出法による新規ナノポーラス白金電極の開発	1,850

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
荒木 仁志	北海道大学	教授	北の海に未知なる生命と生物多様性を探る	2,000
西田 洋巳	富山県立大学	教授	海洋を漂うプラスミドDNAが生物進化に与える影響	2,000
升本 順夫	東京大学	教授	海洋4次元地図帳:モデリングと可視化のニューフロンティア	3,000
吉田 天士	京都大学	准教授	ウイルスは海洋生物多様性を創生・維持する素粒子か?	3,000

第6回(2015年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
阿部 洋	名古屋大学	教授	蛋白質の高効率生産法の開発	2,000
有田 稔彦	東北大学	助教	汎用樹脂とシリカ微粒子からなる高プロトン伝導セパレータの創製	1,300
飯田 琢也	大阪府立大学	准教授	ナノ/マイクロ構造の超高速光集積・検出システムの開発	1,600
岩倉 いずみ	神奈川大学	准教授	アミノ酸誘導体による希土類錯体の合成:同時多色発光材料の設計	2,000
岩瀬 英治	早稲田大学	准教授	自己修復型伸縮配線を用いたフレキシブルデバイスシート	1,000
上原 宏樹	群馬大学	准教授	延伸技術と燃糸技術の融合による超高強度繊維の創製	1,800
齊藤 博英	京都大学	准教授	RNAナノテクノロジーを活用した細胞運命の人為的制御法の開発	1,000
櫻井 敏彦	鳥取大学	准教授	がん治療を目的としたinchworm型人工核酸の創成と応用	1,600
富永 依里子	広島大学	助教	海洋光合成細菌にIII-V族半導体結晶を成長させる技術の開拓	1,900
松元 亮	東京医科歯科大学	准教授	糖応答性高分子ゲルによるインテリジェント型人工臓腑の開発	2,000
山口 匡	千葉大学	教授	非観血無侵襲の超迅速センテネルリンパ節生検システムの開発	1,900
山本 倫久	東京大学	講師	グラフェンバレートロニクスデバイスの創製	1,900

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
木下 奈都子	筑波大学	助教	揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築	1,500
辻 典子	産業技術総合研究所	チーム長	伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸-脳相関に関する研究	3,000
都築 毅	東北大学	准教授	伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立	3,000

第7回(2016年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
岩崎 崇	鳥取大学 農学部 助教	ポリヒスチジンを利用した次世代育種基盤技術の創生	1,500
小西 毅	大阪大学 大学院工学研究科 准教授	量子揺らぎ制御に基づく高性能光アナログ-デジタル変換の研究	1,500
佐藤 主税	産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 研究グループ長	水中のサンプルを多色観察できる走査電子顕微鏡システムの開発	1,100
菅野 公二	神戸大学 大学院工学研究科 准教授	DNAエピゲノム解析に向けた1分子表面増強ラマン分光技術	1,500
西原 禎文	広島大学 大学院理学研究科 准教授	単分子強誘電素子の開発	900
藤田 恭久	島根大学 総合理工学研究科 教授	窒素ドープ酸化亜鉛ナノ粒子塗布型紫外線LEDの高性能化	1,400
松田 修	九州大学 大学院理学研究院 助教	樹木種子の高発芽率化技術に関する研究	1,100
美川 務	理化学研究所 生命システム研究センター 専任研究員	無細胞DNA組換え系を用いた人工蛋白質創製技術の確立	1,500
向井 剛輝	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授	メタマテリアルと量子ドットを用いた極小単一光子放出器の創出	1,000
森 初果	東京大学 物性研究所 教授	革新的有機プロト・エレクトロニクス材料およびデバイスの創製	1,400
安田 琢磨	九州大学 稲盛フロンティア研究センター 教授	究極の電荷輸送機能を指向した革新的有機半導体パラダイムの創出	1,400
山本 拓矢	北海道大学 大学院工学研究院 准教授	環状高分子を利用した新奇刺激応答型DDS材料の開発	800
米澤 徹	北海道大学 大学院工学研究院 教授	金属糊を用いた還元ガスを不要とする革新的銅接合材料	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
芦苜 基行	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 教授	食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価	2,500
栗原 新	石川県立大学 生物資源環境学部 寄附講座 准教授	食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析	1,700
後藤 貴文	九州大学 大学院農学研究院 准教授	牛肉生産システムの大構造改革:科学と国土をフル活用した大革新	2,300
辻 寛之	横浜国立大学 木原生物学研究所 講師	フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究	1,700

第8回(2017年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
鐘巻 将人	国立遺伝学研究所 教授	幹細胞における迅速なタンパク質発現制御技術の開発	1,500
川井 清彦	大阪大学 准教授	RNA1分子検出による癌の遺伝子点突然変異診断	1,100
黒岩 敬太	崇城大学 教授	トマト由来ステロイドアルカロイド配糖体によるブロープ材料開発	1,500
小暮 健太郎	徳島大学 教授	微弱電流薬物送達システムによる体内臓器への核酸医薬新規送達法	1,000
高橋 淳子	産業技術総合研究所 主任研究員	次世代がん治療を実現する「放射線力学療法」の基盤研究	1,500
竹井 敏	富山県立大学 准教授	ガス透過性金型を用いる医薬品材料のナノインプリント加工技術	1,500
秩父 重英	東北大学 教授	ヘリコン波プラズマエピタキシー開発とポラリトンレーザ構造形成	1,500
津田 明彦	神戸大学 准教授	音響配向エレクトロクロミックナノファイバーの創製	1,100
桧垣 匠	東京大学 特任准教授	高CO2固定植物の作出に向けた気孔エンジニアリング技術の創出	1,300
船津 高志	東京大学 教授	マイクロ液滴を利用した有用な機能性生体分子の探索・創製	1,500
馬渡 和真	東京大学 准教授	単一細胞エピゲノム解析のための基盤技術創成	1,500
湯浅 裕美	九州大学 教授	次世代MRAMへ向けた反平行磁化配列層のスピントルク発振実証	1,000

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
植松 智	千葉大学 教授	日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析	3,000
加藤 清明	帯広畜産大学 教授	食物アレルギーを幅広く軽減するコメの研究	2,000
小早川 高	関西医科大学 学長特命准教授	先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止	3,000

第9回(2018年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
足立 典隆	横浜市立大学 教授	DNAを切らない安全な高効率ゲノム編集技術の開発	1,800
内田 健一	物質・材料研究機構 グループリーダ	ハイスループット熱画像計測による外場駆動熱制御材料探索の革新	1,100
大場 雄介	北海道大学 教授	高速AFMと蛍光イメージングを用いた細胞膜動態の高分解計測	1,000
大矢 忍	東京大学 准教授	強磁性金属/半導体ハイブリッド量子スピントロニクスデバイス	1,400
角嶋 邦之	東京工業大学 准教授	酸化物・半導体の機能を利用した大容量蓄電デバイスの研究	1,000
片山 佳樹	九州大学 教授	がんコンパニオン診断を可能にする細胞膜抗原超高感度検出法	1,700
北村 朗	北海道大学 助教	光ファイバー型蛍光相関分光システムの研究開発と生物応用	1,000
竹中 充	東京大学 准教授	ゲルマニウム中赤外光集積回路を用いた革新的分子スキャナの開拓	1,200
帯刀 陽子	東京農工大学 講師	分子性電磁ナノコイルからなるメディカルデバイスの創成	1,100
長崎 幸夫	筑波大学 教授	放射線プロテクション機能を有するナノメディシンの開発	1,200
廣瀬 哲也	神戸大学 准教授	シリコン太陽電池による光環境エネルギー利用システム基盤の創生	1,400
松島 敏則	九州大学 准教授	有機無機ペロブスカイトを用いた革新的半導体デバイスの創製	1,800
持田 智行	神戸大学 教授	金属錯体の液化に基づく光機能性液体材料の創成	1,300
柳澤 琢史	大阪大学 教授	Deep learning と脳ビッグデータによる想起画像推定	1,500

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
國澤 純	医薬基盤・健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー	食と腸内細菌により形成される腸内環境の理解と健康科学への展開	2,000
西條 雄介	奈良先端科学技術大学院大学 准教授	イネ種子微生物叢を介した種子形質及び微生物共生の制御基盤構築	3,000
妹尾 啓史	東京大学 教授	土を肥やす新たな微生物基盤の解明	1,500
野田口 理孝	名古屋大学 助教	接木技術革新による放棄土壌の再利用プロジェクト	2,500

第10回(2019年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
安藤 和也	慶應義塾大学 准教授	金属酸化物スピン軌道エレクトロニクスの開拓	2,000
和泉 慎太郎	神戸大学 准教授	体温発電を用いるバッテリーレス容量結合型心電図計測システム	1,400
伊藤 英臣	産業技術総合研究所 研究員	腸内細菌をねらった害虫防除技術の基盤創出	1,600
伊庭 靖弘	北海道大学 准教授	あらゆる内部構造をフルカラーで捉える3Dイメージング装置開発	1,500
川上 茂	長崎大学 教授	ネオ・エクソソームの創製	1,400
木寺 正平	電気通信大学 准教授	ドブプラ及び多重散乱データの双方向処理による多元的人体検出法	1,400
澤本 和延	名古屋市立大学 教授	脳細胞の移動促進による再生医療技術の創出	2,000
谷本 博一	横浜市立大学 専任講師	時空間分解能を持つ細胞内力学操作技術の開発	1,500
坪井 泰之	大阪市立大学 教授	ナノ構造と量子効果に基づく革新的光マニピュレータの開発	2,000
中川 明	石川県立大学 講師	オピオイド系鎮痛剤の原料テバインの大腸菌を用いた生産系の構築	1,800
長汐 晃輔	東京大学 准教授	2次元層状ヘテロ構造を用いた光機能素子の実証	1,800
山口 明彦	東北大学 助教	視触覚センサFingerVisionに基づくAI物体操作	1,600

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
伊藤 幸博	東北大学 准教授	薬に過度に依存しない畜産物の健全育成システムの開発	2,000
経塚 淳子	東北大学 教授	地下茎雑草の強みを逆手に取る画期的雑草防除法の開発	2,000
清水 達也	東京女子医科大学 教授	藻類動物細胞共生リサイクル培養による革新的食料生産法の確立	3,000
宮下 芳明	明治大学 教授	健康な食事を化学物質なしで満足な美味しさに変える電気味覚技術	2,000

採択実績推移

採択実績

	「理想の追求」		「産業基盤の創生」	
	応募数	採択数	応募数	採択数
第1回募集	76件	3件	245件	13件
第2回募集	87件	4件	304件	12件
第3回募集	62件	4件	358件	13件
第4回募集	65件	3件	323件	13件
第5回募集	77件	4件	399件	13件
第6回募集	128件	3件	376件	12件
第7回募集	128件	4件	420件	13件
第8回募集	159件	3件	609件	12件
第9回募集	102件	3件	395件	14件
第10回募集	99件	4件	385件	12件
	「善き未来を開く科学技術」		「新産業を生む科学技術」	
第11回募集	186件	3件	217件	11件

会計報告

正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

(単位:円)

2019年1月1日から2019年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
経常収益計	418,515,832	420,714,663	△ 2,198,831
(2) 経常費用			
① 事業費	320,017,858	300,299,691	19,718,167
② 管理費	93,238,906	97,969,323	△ 4,730,417
経常費用計	413,256,764	398,269,014	14,987,750
当期経常増減額	5,259,068	22,445,649	△ 17,186,581
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	92,344	137,538	△ 45,194
(2) 経常外費用			
経常外費用計	1	-	1
当期経常外増減額	92,343	137,538	△ 45,195
当期一般正味財産増減額	5,351,411	22,583,187	△ 17,231,776
一般正味財産期首残高	131,630,065	109,046,878	22,583,187
一般正味財産期末残高	136,981,476	131,630,065	5,351,411
II. 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	99,940	100,028	△ 88
② 一般正味財産への振替額	△ 99,940	△ 100,028	88
指定正味財産期首残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
指定正味財産期末残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
III. 正味財産期末残高	1,137,270,238	1,131,918,827	5,351,411

貸借対照表

貸借対照表

(単位:円)

2019年12月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I.資産の部			
1.流動資産			
流動資産合計	320,327,900	287,109,924	33,217,976
2.固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(2)その他固定資産			
什器備品	945,296	593,710	351,586
その他固定資産合計	945,296	593,710	351,586
固定資産合計	1,001,234,058	1,000,882,472	351,586
資産合計	1,321,561,958	1,287,992,396	33,569,562
II.負債の部			
1.流動負債			
流動負債合計	184,291,720	156,073,569	28,218,151
負債合計	184,291,720	156,073,569	28,218,151
III.正味財産の部			
1.指定正味財産			
寄付金	1,000,288,762	1,000,288,762	-
指定正味財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(うち基本財産への充当額)	(1,000,288,762)	(1,000,288,762)	-
2.一般正味財産			
一般正味財産	136,981,476	131,630,065	5,351,411
正味財産合計	1,137,270,238	1,131,918,827	5,351,411
負債および正味財産合計	1,321,561,958	1,287,992,396	33,569,562

キヤノン財団 概要

設立趣意

設立趣意

キヤノンは、「国産の高級カメラをつくらう」という大きな志を抱いた若者により1937年に企業としての歩みを始めました。その進取の気性の精神は今日まで受け継がれ、技術で人類の幸福に貢献し続ける企業を目指して発展してまいりました。

キヤノンはこれまでも、人々の生活を豊かにする製品やサービスを提供するとともに、さまざまな分野で社会・文化支援活動を展開してまいりました。この度、これらの活動に加えて、より一層社会に対し恩返しをしたいという強い気持ちから、創業70周年を記念し、キヤノン財団を設立することといたしました。

現在、情報通信を始めとする技術革新により、急速な経済のグローバル化、情報のネットワーク化が実現され、我々の生活はこれまでになく豊かになりました。しかし、その一方で、環境問題、資源問題など、国・地域の境界を越えた人類共通の深刻な課題に直面しています。

これら諸問題の解決には、国家レベルの対応のみならず、人類が幅広く英知を結集し、多面的な取り組みを行い、積極的にその役割を担うことが重要です。とりわけ、科学技術には、人類が直面する諸問題の解決に大きく寄与することが求められています。

キヤノン財団は、時代の要請に従い、科学技術をはじめとするさまざまな学術および文化の研究、事業、教育を行う団体・個人に対し幅広い支援を行い、人類社会の持続的な繁栄と人類の幸福に貢献していきたいと念じております。

2008年12月1日



設立者
キヤノン株式会社 代表取締役会長

御年洗富士夫

ビジョン/ミッション

ビジョン

科学技術の将来と未来社会の洞察をもとにした新たな価値創造への挑戦が尊重される社会を実現することにより、人類の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ミッション

未来社会のありたい姿を描き、その実現のために今までにない独創的な研究課題に挑戦する科学技術者を支援していきます。

概要

名称	一般財団法人 キヤノン財団
設立	2008年12月1日
基本財産	10億円
所在地	〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2
Tel.	03-3757-6573
Fax	03-3757-0674
URL	https://www.canon-foundation.jp

目的

当財団は、科学技術をはじめとする幅広い学術および文化の領域における研究、事業、教育等に対して助成・支援を行うことによって、学術および文化の振興発展を図り、もって広く国民生活の向上と人類社会の繁栄に貢献することを目的とします。

沿革

当財団は、キヤノン株式会社創業70周年を記念して、2008年12月1日に一般財団法人キヤノン財団として同社により設立されました。2009年5月より2つの研究助成プログラムを設定し、研究助成公募を開始しました。これまでに11回の研究公募を行い、計177件が採択されました。

評議員・理事・監事 一覧

評議員

(2020年4月1日現在・五十音順)

役職	氏名	現職
評議員会議長	御手洗 富士夫	キヤノン株式会社 代表取締役会長 CEO
評議員	岩沙 弘道	三井不動産株式会社 代表取締役会長
評議員	佐藤 康博	みずほフィナンシャルグループ 取締役会長
評議員	広瀬 勝貞	大分県知事
評議員	渡 文明	JXTGホールディングス株式会社 名誉顧問

理事・監事

(2020年4月1日現在・五十音順)

役職	氏名	現職
理事長	吉川 弘之	日本学士院会員 東京国際工科専門職大学 学長 東京大学名誉教授・元総長
理事	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会 顧問 慶應義塾大学名誉教授・元慶應義塾長
理事	伊賀 健一	東京工業大学名誉教授・元学長
理事	垣添 忠生	日本学士院会員 公益財団法人日本対がん協会 会長 国立がんセンター 名誉総長
理事	田中 稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
理事	本間 利夫	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CTO
監事	大江 忠	弁護士